

組合員・仲間の皆様へ 22春闘を前進させる一層の団結を呼びかけます

コロナ禍の中、大幅賃上げを獲得しよう！

コロナ禍の中で、物流を止めることなく、連日、物流の最前線で奮闘されている皆さんに、心より敬意と感謝を表します。全国港湾と港運同盟は、「コロナ禍で仕方がない」ではなく、これを乗り越え、現場の苦勞に答え、大幅賃上げ獲得に向けて闘う22春闘にしたいと決意しています。

全国の港湾労働者が力を合わせ、港湾産別制度と港湾関係諸政策の要求実現に全力でたたかいぬくために頑張ることを心より呼び掛けます。

日港協の「不誠実な回答」の姿勢を絶対に許さない決意を固め合おう！

22春闘は、重要な局面を迎えています。私たちが22春闘要求に込めたものは、「雇用と賃上げ」という切実な願いだけではありません。港湾の自動化・機械化や非効率石炭火力発電施設の削減など港湾運送事業の根幹に係る問題に対し、日港協がこれをどう捉え、港湾産業の未来をどのように考えるかを問うています。

しかし、3月8日に開催した中央港湾団交での第一次回答は、「各社の事情が異なる」「体力や労務構成が違う」として、殆ど「各社対応」や「個別労使協議」とするというもので、昨年の確認書を反故にするかの内容でした。

港湾産別労使は、船社・荷主や行政にきっちりモノを言い、理解を求めながら、産業の健全な発展のために必要な施策と対策を長い歴史の中で作り上げてきました。

この、産別労使関係は、労使が共に生きていくための不可欠な要件であり、「不誠実な回答」の姿勢は絶対に容認してはならないと考えます。

日港協は、港湾物流を支える港湾労働者の汗と苦勞に誠意をもって応えよ！

職場は人員不足が常態化し、過密・過重労働が続いています。加えてコロナ禍で、命と健康への不安と背中合わせの作業を強いられています。この状況に対して、「統一条件は困難」というように、現場の苦勞を顧みない理不尽な回答を出してきているのです。団交では、「要求を真摯に受け止める」と前置しますが、回答は真逆です。

個別に協議で環境を整えようとするれば、企業間競争とユーザーの圧力で、結果として労務コスト切り下げへと向かうことは、火を見るより明かです。だから、産別労使が集団的な労使関係の中で働くルール、港湾労働秩序の規範をつくってきたのです。

仲間の皆さん、いまこそ労働組合の出番、頑張り時です。船社が莫大な利益を上げている中、今春闘で大幅賃上げを獲得するには、日港協として適正料金確保の環境を確立せしめることが不可欠であり、そのために、産別結集と団結がどうしても必要です。本来、直接出向いて訴えたいところですが、コロナ禍の収束が見えない中で、それが叶いません。現状打開へ、22春闘の前進に向かって共に頑張りぬくことを強く呼びかけ、メッセージとします。

2022年3月15日

全国港湾労働組合連合会

中央執行委員長 柏木公廣

全日本港湾運輸労働組合同盟

会長 日吉正博